

くりまっこ

元気いっぱい 笑顔あふれる 栗真の子



「希望に満ちた それぞれの輝く未来へ」 旅立ちます！

令和7年3月19日、いよいよ卒業の日。卒業を迎える6年生の子どもたちにとっては、一生に一度しか味わえない小学校での卒業式。そして、私たち教職員にとっても、今年卒業する栗真の14名の子どもたちをお祝いできるのは、今回限り。このような貴重な時間をみんなで過ごし、子どもたちの卒業をお祝いすることができたこと、大変嬉しく感じました。そして、巣立ちゆく子どもたちの表情を見ると、嬉しくもあり、寂しくもありという気持ちでしたが、無事に卒業式を終えることができたことは、大変喜ばしく思いました。



卒業したとはいえ、栗真小学校は、子どもたちにとって、唯一の母校です。顔を合わせる機会も度々あると思います。そんな時、私たち教職員は、声を掛けたり、話を聞いたり、温かく出迎えたと思っています。

卒業生の皆さん、「希望に満ちた それぞれの輝く未来へ」旅立ちましょう！



卒業証書授与式での「学校長式辞」の一節から・・・

さて、皆さんは、日米通算4367安打を記録したイチローさんを知っていますか。日本では、オリックスという神戸市を本拠地とするプロ野球チームで9年間プレーし、首位打者7回、最優秀選手3回、ゴールデングラブ賞7回など、大変活躍した選手です。神戸が阪神淡路大震災に見舞われた1995年には、「がんばろう神戸」を合言葉に、チームの中心選手として活躍し、オリックスをパシフィック・リーグの優勝に導きました。翌年の1996年には、日本一に輝いたのです。そして、2001年には、日本人野手として初めてアメリカの大リーグに挑戦しました。その頃の大リーグは、ホームランを打つなどパワーヒッターが活躍する時代で、体格で劣る日本人打者は通用しないだろうと思われていました。しかし、イチローさんは、卓越した打撃技術とスピードで評価を覆しました。1年目には、いきなり年間242安打を放ち首位打者と盗塁王を獲得し、新人王を受賞するだけでなく、最優秀選手賞をも獲得したのです。そして、ここから10年間連続で年間200安打以上、2004

年には、大リーグの年間安打記録を84年ぶりに更新する262安打を放ちました。守っても「レーザービーム」と呼ばれた強肩と広い守備範囲で、ゴールドグラブ賞に10年連続で選ばれるなど、走攻守で大活躍し、アメリカの野球界に衝撃を与えた選手なのです。

そのイチローさんですが、今年の1月16日に、日本のプロ野球で大きな功績を残した選手が対象となる日本野球殿堂に候補者一年目で選出されました。そして、1月21日には、アメリカの野球殿堂にもアジア人で初めて選出されたのです。ここで注目だったのが、満票での選出になるかどうかでした。今までの満票での選出は、大リーグの長い歴史の中でも、わずか一人だけです。残念ながら、394人中、たった一人だけが投票しなかったため、満票での選出にはなりませんでした。

記者会見でイチローさんは、このことについて、次のように語っています。

「1票足りないというのは、すごく良かったと思います。何かが足りない場合、それを自分なりの完璧を追い求めて進んでいくのが人生だと思うんです。やはり不完全であるというのはいいなって。生きていく上で不完全だから進もうとできるわけです。そういうことを改めて考えさせられる、見つめ合える、そこに向き合える機会になったのは、良かったなと思います。」

イチローさん独特の捉え方です。そんなイチローさんですが、次のようなことも語っています。

「振り返ると、あまりにも多くの出来事がありました。いいことだけではなく、苦しいこともたくさんありました。最終的に一歩ずつここに近づき、この日を迎えられることは言葉では言い表せないほどの気持ちです。」

そして、若い人たちへのアドバイスとして、次のようなことも語っています。

「才能ある人たちはたくさんいます。僕なんかもうとても比較にならないくらい才能にあふれた人はいっぱいいます。でも、それを生かすも殺すも自分自身だということです。自分の能力を生かす能力は、また別にあるということを知っておいてほしい。才能があるのに、なかなかそれを生かせないという人はいっぱいいます。自分のことをどれだけ知っているかということが、結果に大きく影響しているということを知っておいてマイナスはないと思います。」

つまり、イチローさんは、自分自身をしっかりと見つめることを通して、自分自身のまだ見ぬ才能に気づき、その能力を生かす方法を考え、その能力を伸ばしていくために、必死に努力し続けてきたのだと思いました。

新たなスタートラインに立とうとしている皆さん。イチローさんの語っているように、才能は誰にでもあるのです。しかし、それに気づくことができるかどうか。それを生かすために努力をするかどうかなのです。さあ、皆さん、才能は、いろんなことに挑戦していく中で見つけることができるはずですよ。そして、その能力を生かせる場所を見つけ、その能力をどんどん伸ばしていくために努力していきましょう。継続した努力の向こうには、きっと夢につながる扉があります。その扉を開ける時こそ、皆さんの夢が開花するときだと思います。自分の才能を生かし、夢に向かって、挑戦していきましょう。

